

- 問1 室町時代後期、応仁の乱をきっかけに幕府の権威が衰えると、実力で領地を拡大する戦国大名が登場しました。彼らが自らの領国内の武士や民衆を統治し、秩序を維持するために独自に定めた法を何といいますか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
1. 分国法 2. 御成敗式目 3. 武家諸法度 4. 公事方御定書
- 問2 室町時代から戦国時代にかけて見られた、実力のある下の者が上の者を倒し、その地位を奪い取るという社会的な風潮を何と呼びますか。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
1. 下請け 2. 寄合 3. 下剋上 4. 惣村
- 問3 戦国時代に各地を支配した戦国大名の多くは、「下剋上」という風潮の中で台頭しました。この時代における「下剋上」の説明として、当時の社会状況をふまえた最も適切なものはどれですか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 農民たちが宗教的な団結を強めることで、武士の支配を実力で排除して自治を行った。 2. 朝廷の権威を背景とした下級武士が、実力行使によって幕府の政治を批判し、地位を向上させた。 3. 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。 4. 幕府から任命された守護が、自らの実力を高めて隣国を吸収し、支配権を世襲していった。
- 問4 戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何といいますか。 (2021年 京都府公立入試 類似)
1. 武家諸法度 2. 御成敗式目 3. 公家諸法度 4. 分国法
- 問5 戦国時代において、戦国大名が自らの領国内の秩序を維持し、家臣や民衆を統治するために独自に制定した法律を何と呼びますか。江戸時代に幕府が定めた武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領土の実情に合わせて定めたものを指します。 (2021年 三重県公立入試 類似)
1. 分国法 2. 公事方御定書 3. 武家諸法度 4. 御成敗式目
- 問6 戦国時代の甲斐国（現在の山梨県）を治めた武田氏が定めた「甲州法度之次第」のように、各地の戦国大名が領国支配のために定めた法について、その特徴を説明したものとして適切なものはどれか。 (2021年 京都府公立入試 類似)
1. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目をそのまま引用し、全国一律の公平な裁判を保証した。 2. 朝廷が定めた律令制度を復活させ、中央集権的な国家体制を再構築することを目指した。 3. 全国の公家を統制し、儀式や行事のあり方を細かく規定することで天皇の権限を制限した。 4. 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。
- 問7 戦国時代、各地の有力な戦国大名が自らの領国内の秩序を維持し、家臣や領民を統制するために独自に制定した法律を何といいますか。 (2024年 奈良県公立入試 類似)
1. 墾田永年私財法 2. 分国法 3. 公事方御定書 4. 永仁の徳政令
- 問8 1543年、九州の南方に位置する種子島に漂着した中国船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
1. イギリス人 2. ポルトガル人 3. オランダ人 4. スペイン人
- 問9 15世紀後半の応仁の乱以降、室町幕府の権威が低下するなかで、各地の戦国大名が自らの領国内を独自に統治・管理するために制定した法律を何というか、正しい名称を選びなさい。 (2023年 福井県公立入試 類似)
1. 武家諸法度 2. 公事方御定書 3. 御成敗式目 4. 分国法
- 問10 15世紀後半から約11年間にわたって京都を中心に続き、その後の略年表において「下剋上」の風潮が全国に広まるきっかけとして記される戦乱はどれですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
1. 観応の擾乱 2. 壬申の乱 3. 応仁の乱 4. 承久の乱
- 問11 石見銀山から産出された銀は、16世紀後半から17世紀初めにかけて世界の銀産出量の約3分の1を占めていたとも言われています。この銀山で生産を支え、日本の銀が国際社会へ大きな影響を与える要因となった技術的背景として正しいものを選んでください。 (2019年 和歌山県公立入試 類似)
1. 足尾銅山鉱毒事件を教訓にした、公害を出さない最新の濾過技術が開発されたこと 2. たたら吹きという、鉄を精錬するための日本独自の製鉄法が応用されたこと 3. 明治維新以降、フランスの技術を取り入れた官営模範工場として整備されたこと 4. 灰吹法という、鉛を用いて銀を抽出する高度な精錬技術が導入されたこと
- 問12 1543年に種子島へ鉄砲が伝来したことは、その後の戦国時代の戦い方や社会にどのような変化をもたらしましたか。最も適切な説明を選んでください。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
1. 弓矢や刀剣が全く使われなくなり、すべての兵士が鉄砲のみを装備して戦うようになった 2. 騎馬武者による一騎打ちが戦いの主流となり、個人の武勇がより重視されるようになった 3. 鉄砲の製造に高度な技術が必要だったため、戦国大名同士の争いが一時的に停止した 4. 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった
- 問13 室町幕府が最終的に滅亡を迎えた過程について、1573年に行われた出来事として正しい説明はどれですか。 (2018年 静岡県公立入試 類似)
1. 織田信長が、鉄砲を組織的に用いて長篠の戦いで武田勝頼の軍勢を破った 2. 織田信長が、比叡山延暦寺を焼き討ちして宗教勢力の軍事力を排除した 3. 織田信長が、布教活動を行っていたフランシスコ・ザビエルにキリスト教の保護を約束した 4. 織田信長が、対立を深めていた15代将軍の足利義昭を京都から追放した
- 問14 戦国大名の朝倉氏が定めた法には、家臣が各自の領地で勝手に城を構えることを禁じ、大名の本拠地に住まわせる方針が示されています。このように、大名が家臣を自らの膝元に集住させた目的として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 広島県公立入試 類似)
1. 家臣を農村に定住させることで、戦時以外は農業に専念させて食料生産を増やすため 2. 家臣を各地の拠点に分散して配置することで、領土の境界線の防衛を固めるため 3. 海外から伝来した鉄砲やキリスト教が、地方の家臣に広まるのを防ぐため 4. 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 分国法	室町幕府の支配力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名は自らの領国を自立して治める必要がありました。そこで、家臣同士の争いを禁じる「喧嘩両成敗」や、年貢の徴収、婚姻の制限などを定めた独自の法である分国法（家法）を制定しました。なお、御成敗式目は鎌倉時代、武家諸法度や公事方御定書は江戸時代の法です。
問2	答え 3 下剋上	応仁の乱以降、足利将軍家や守護大名の権威が失墜する中で、各地で実力を持つ者が地位を奪う現象が目立ちました。この言葉は当時の不安定ながらも活力のある社会情勢を象徴しています。
問3	答え 3 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。	戦国時代には、本来は主君に仕える立場であった守護代や国人などが、武力などの実力によって守護大名を追放したり、倒したりして自らが戦国大名へと成長する事例が多く見られました。これにより、室町幕府の任命に基づかない新しい支配体制が各地に形成されました。他の選択肢は一向一揆や守護大名の強化、幕末の動きを説明したものです。
問4	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。
問5	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は自らの力で領国支配を確立する必要がありました。そこで、領地内の紛争解決や家臣の統制を目的として、独自の法である分国法を制定しました。代表的なものに、武田氏の「甲州法度之次第」や今川氏の「今川仮名目録」などがあります。
問6	答え 4 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。	分国法は、戦国大名が家臣団を統制し、領国を安定させることを目的としていました。特に「喧嘩両成敗」の規定は、武士同士が私的な武力で行使していた解決を禁じ、大名の判断に従わせることで領国内の紛争を抑える重要な仕組みでした。
問7	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は、幕府の法（幕府法）に頼らず自らの力で領国を統治する必要がありました。そこで、家臣同士の私闘を禁じる「喧嘩両成敗」の規定や、農民の管理、寺社の統制などを盛り込んだ独自の法典を定めました。これを分国法、または家法と呼びます。
問8	答え 2 ポルトガル人	16世紀半ば、東アジアに進出していたポルトガル人が、種子島に漂着した中国船に乗っていたことから、日本に初めて鉄砲がもたらされました。当時の種子島島主であった種子島時堯（ときたか）がこれを買取り、国産化を命じたことで、日本国内での製造と普及が始まりました。
問9	答え 4 分国法	室町幕府の統治能力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名が領国を安定して支配するために独自に定めた法典です。幕府の法（幕府法）や荘園領主の法ではなく、大名自身の権力に基づいて定められた点に特徴があります。
問10	答え 3 応仁の乱	8代将軍足利義政の跡継ぎ問題をきっかけに、守護大名の細川氏と山名氏が対立して始まったのが応仁の乱です。この乱によって幕府の権威は失墜し、下の者が実力で上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まり、戦国時代へと移行する大きな転換点となりました。
問11	答え 4 灰吹法という、鉛を用いて銀を抽出する高度な精錬技術が導入されたこと	16世紀前半に博多の商人らによって朝鮮半島から伝えられた灰吹法（はいふきほう）は、鉛を使って鉱石から銀を取り出す画期的な精錬技術でした。この技術が石見銀山に導入されたことで、不純物の少ない高品質な銀の大量生産が可能になり、日本の銀が世界経済において大きな影響力を持つことになりました。選択肢にある「たたら吹き」は鉄、「官営模範工場」は富岡製糸場などに代表される近代化の動きを指します。
問12	答え 4 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった	鉄砲の伝来と普及は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬武者中心の戦いから、鉄砲を装備した足軽による組織的な集団戦法へと移行しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げ、厚い壁を持つ堅固な城郭が築かれるようになるなど、建築技術にも大きな影響を与えました。
問13	答え 4 織田信長が、対立を深めていた15代将軍の足利義昭を京都から追放した	織田信長は当初、足利義昭を擁立して京都に上洛しましたが、後に自らの政策を制限しようとする義昭と激しく対立しました。1573年、信長は義昭を京都から追放し、これにより200年以上続いた室町幕府は実質的に滅亡しました。鉄砲の伝来やキリスト教の布教開始はそれ以前の出来事であり、幕府滅亡の直接的な政治的要因は信長と将軍の対立にあります。
問14	答え 4 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため	戦国大名にとって、有力な家臣が自分の領地で独自の勢力を持つことは、裏切りや反乱のリスクを伴いました。そこで、家臣を城下町に強制的に住まわせることで、家臣と領地の直接的なつながりを切り離し、大名の監視下に置きました。これにより、大名は軍事力を本拠地に集中させ、より強力な統治体制（大名領国制）を築くことが可能になりました。